

令和元年度

事業所名： グループホーム ふるさと 1

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900306		
法人名	株式会社 スガワラ製作所		
事業所名	グループホーム ふるさと 1		
所在地	〒029-3102 一関市花泉町金沢運南田170-1		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との結びつきを大切に家庭的な雰囲気のもと安心して生活できるよう支援しております。また、その時期・季節にあわせ四季を味わせて頂ける様、外出やホーム内の飾りつけに力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0390900306-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景が広がるなかに整備時期が異なる2ユニットのグループホームが立地している。花泉地区以外からの入居者が比較的多く、出身地の千厩地区や藤沢地区の観光地や祭りに定期的にドライブしている。運営推進会議の地元の委員は、定例の会議の他、避難訓練への参加や野菜、花作りへの協力と積極的に活動し、地域住民からの理解を深める一助となっている。秋には事業所の二大イベントである敬老会と芋煮会が開催される。敬老会は利用者と家族向けのものとし、一方、芋煮会は、地域住民との交流をメインとして昨年は50人以上の地域住民が参加している。今年の芋煮会は、自治区のイベントの芋煮会と一緒に合同開催を予定するなど、地域との繋がりが密になってきている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年8月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム ふるさと 1

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	役員、職員間で理念を共有するため、ホールの見えやすい所に掲示し理念に沿ったサービスを心掛けています。	事業所理念とそれを具体化した運営方針が、ユニットの共有スペースに掲示されている。ユニット会議等で理念の共有等を図っているが、管理者は、職員への理念の浸透と実践化が必要だとしている。	理念の共有について、ユニット会議等で具体化した運営方針を基に、具体的実践に結び付ける取り組みが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや施設の行事などに参加また、出向かう事で地域の方々との触れ合いの場を多く持つよう心がけています。	65世帯の大門地区の自治会に加入し、自治会を通じて広報誌のふるさと通信を全戸に配布している。事業所の2大イベントとして、敬老会と芋煮会を9月と10月に予定し、地域交流をメインとする芋煮会では、昨年は50名を超える地域住民の参加があった。今年は、地元の大門地区の芋煮会行事と一緒に開催することとし、準備を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に広報誌を配布しています。広報誌には施設での過ごし方の他に『介護一口メモ』として認知症を理解していただけるよう認知症者への対応の仕方や医療知識等の情報を提供しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や事業所の取り組みなどを報告しています。委員の方々からの意見要望があった場合は速やかに対応しています。	利用者家族、花泉支所職員、区長、民生委員、地域住民で構成され、婦人消防協力隊に加入している委員からは、避難訓練時の助言等も得ている。芋煮会の合同開催は区長から提案があったものである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営についてわからない事は、行政機関に助言を受ける等日頃から連絡を密に取り合っている。	困難事例の処遇については市花泉支所の地域包括支援センターに、介護報酬関係については一関地区広域行政組合に、それぞれ協議・相談し連絡を密にとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回身体拘束についてユニット会議の際に話し合いをしている。身体拘束の定義11項目及び玄関の施錠等を含め職員同士常々拘束について意識付けを行っています	ユニット会議の研修の際に、虐待予防と併せて身体拘束適正化についても3か月に1回実施している。日常業務でのスピーチロックを疑われる声掛けがあれば、申し送り時に注意喚起するとともに、スタッフ間のミニ会議でも意識啓発を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に3か月に一回ユニット会議で話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する入居者は居ないが制度についての内外研修に参加し理解を深めて行くことにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書の内容を説明しています。入居者やご家族の不安や疑問点を伺い、不明な点、不安な点が残らないよう十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族が来所された際は管理者、職員が必ずコミュニケーションを取るようにしている。また、玄関にご意見箱を設置しています。	3か月に1回、定期的を開催するカンファレンスには家族も参加し、運営よりも利用者の個別的な支援の要望等が出されることが多い。家族との面談は、共有スペースではなく個室を用意し、話しやすい雰囲気配慮している。遠隔地の家族等は、電話で意見等を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・朝のミーティング時に意見交換に於いて各職員から問題点や課題等を聞き取りし運営に反映させています。	日常業務の調整や出勤時間、記録関係について、ユニット会議、申し送り時に職員から提案されている。ユニットリーダーの配置、記録用タブレットの導入等も提案されており、予算が伴うこともあり現在は検討の段階となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の職位・職責又は職務内容等に応じた任用等の要件を定めこの内容等に応じた賃金体系を定めています。又、勤続年数や経験年数などに応じて昇給する仕組みを取っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な研修・勉強会には参加して頂く様にしている。また、施設内での研修会などを取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業所合同研修会等へ参加させ、介護職員のスキルアップを図ると共に同業者との交流の機会を作っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の家に outgoing 実態調査を行っている。また、担当のケアマネージャーさんに生活歴や留意点を事前に情報提供していただき事で安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に、ご本人さん・ご家族さんに施設見学をして頂いています。又、困っていること・不安に思っていることを気軽に話せる環境を作り、出来るだけ不安等を和らげています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にご家族様と話し合いを行うことで、「今、何が必要なのか」を見極めその時にあった支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんの潜在能力やできる事を職員は理解し十分に発揮できる環境を作るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを定期的に行ったり、施設内の行事に参加して頂く事で関係が保てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地の観光や祭り見学等を行っています。馴染みの方に声を掛けられることもあり関係が保てている。	毎週土曜に自宅に帰り一泊してくる利用者や毎週家族が来所し居室に生け花を飾っている利用者もいる。少数ではあるが、友人が来所したり、他の棟入居した同級生や元職場の同僚に行ったり来たりしている。ドライブ旅行の際には、出身の藤沢地区、千厩地区等にも出かけている。定期的に来所する理容師等と新たな馴染みの関係が出来上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内の装飾を一緒に行ったり、施設外に出かけることで一人で孤立する時間が無いようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後にご家族さまからの相談はあまりないが必要に応じて相談や支援に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを行うことでご家族様から意見や意向を把握している。また、本人からの要望なども取り入れている。	ある程度の意思表示が可能な大半の利用者には、関心のある話題を出しながら、思いなどを話してもらうようにし、話された意向に沿って、伝統の花泉互市、遊水地公園の花見等に出かけている。定期的カンファレンスの際に出席家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご本人さん、ご家族さん、ケアマネジャーさんからの情報を提供して頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝のミーティングや個別記録を残すことでどのように一日生活したか把握出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作る前に職員同士でカンファレンスを行いモニタリング、アセスメントをする事で現状にあったケアプランを作成している。	利用者一人一人に担当職員がつくのではなく、介護職全体で利用者の様子を確認している。今年度からモニタリング時期、目標期間を見直すとともに、モニタリングの評価項目等が分かりにくいとの意見があり、引き続きその見直しに向けて検討している。書道などの趣味活動や家族との交流等も計画に組み入れている。	介護計画に対する理解を深めるうえでも、介護計画の援助内容等に具体的サービス内容を明記することについて検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランに沿った内容を記載している。その他にも気づきや出来事も記載し、ケアプラン更新時に見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中でその時々ニーズや状況に応じて柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり施設に地域の方々をお呼びしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院と連携しています。健康で気になることは家族に伝え、かかりつけ医に相談して頂いたり受診に立ち会っている。	かかりつけ医を継続している利用者は半数で、受診は家族が対応している。その他の半数は、二カ所の協力医の訪問診療を受けている。非常勤であるが、経験豊かな看護師が健康管理や医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎朝バイタルチェックをする事で異常時の早期発見に努めている。また、気になる点や異常時は看護師に報告し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はケアマネージャーが施設の情報提供を行い適切に医療が受けられるようにしている。また、退院時は病院側のカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針の説明を行っている。また、施設利用時の状況に応じご家族様と話あう機会を設けている。	これまで終末期の対象者がいなかったため、看取り介護の経験はない。看護師を確保し医療との連携を図りながら、訪問診療やターミナルケアについての職員研修の実施など、終末期の対応に向けた体制づくりを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師に急変時の対応や応急処置の勉強会を開催して頂き勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも協力して頂き非難訓練を実施している。	ハザードマップ上は問題がない。消防計画により年2回避難訓練を実施し、運営推進会議委員を含めて地域住民が5名参加している。また、隣接の会社からは、駐車場を一時避難場所として利用する了解を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場になって誇りやプライバシーを損ねないよう職員は言葉使いなどに気をつけながら支援している。	利用者や家族の了解を得て、「ちゃん付け」や「ニックネーム」にしている利用者もいるが、呼称は基本的には「さん付け」としている。入浴を同性介助にしたり、排泄誘導時にはさりげなく声掛けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がまず何をしたいのかを把握しその後で適切なケアが行えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を大切にしながらケアを行っている。また、その時々でしたいことなどに柔軟に対応できるようできるだけ配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品をする利用者さんがいたり職員が髪をあんであげたりとおしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを一緒に考えたり、季節に合わせた食事ができるよう心掛けている。また、食事の準備・片付けも手伝って頂いている。	利用者から好みや食べたい物を聴きながら、1週間分のメニューを職員が交代で作成している。誕生日のちらし寿司のほか、土用の丑の日のウナギ、七夕のそうめん等、季節感も大事にしている。ホットケーキやたこ焼きは利用者が喜んで作って食べている。ウッドデッキに出てお茶会等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と連携し食事摂取量などを調整しながら提供している。また、朝・昼・夕の食事の他に10時と15時に水分補給を行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が食事の後に声掛けを行い、口腔清掃をして頂いている。また、就寝時には義歯の方はポリドントを使用するなどして清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見極め、できるだけ自立して排泄ができるようケアしている。	排泄チェック表を確認したり、利用者のお腹をいじったりする様子などから声掛け誘導をしている。殆どの利用者は便座の立ち座りができる状態にあり、それに応じた支援を行っている。夜間は2名に声掛け誘導している。広々としたトイレはオストメイトにも対応できる設備となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師、医師と連携し何日も排便が出ていないかたには下剤を処方していただくこともある。また、軽体操をするなどして腸への働きかけ・予防に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人にあった入浴回数で入浴支援にあたっていている。多い方で週3回だが希望があれば随時対応している。	新しい施設であるが、昨年浴室を改装し、跨ぐのに不安があっても入りやすい浴槽や目につきやすい赤い手すりを機能的に配置するなど、広くて安全で入浴しやすい環境が整っている。入浴中も昔の仕事の話をしたり、歌を唄ったりする利用者もおり、利用者に合わせ演歌やクラシック音楽のBGMを流している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ、日常生活に支障が出ないようにゆっくりと休んでいただいています。眠れない方には、水分補給をしたり、話を聞いたり安心して休んでいただけるように支援しています。睡眠剤が必要な方は内服されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更・追加になった場合は職員間で申し送りを行ない共有している。また、副作用が強い場合などは看護師・医師と相談し調整して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物ツアーや外出時に好きなものを購入するなど気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望で1週間に1回自宅に帰り外泊される利用者さんや毎週決まった曜日に自宅に帰られる利用者さんもいる。それ以外にもご家族様に協力していただきご家族様とお出かけして頂いている。	屋外での散歩は、玄関から出てすぐの道路に歩道がないため、事業所内の歩行が中心となっている。共有スペースから自由に出入りできるウッドデッキには、プランターで野菜や花を育てたり、足湯コーナーも設置して、語らいの場ともなっている。利用者によっては、職員と一緒に洋服の買物、食材購入等に出かけている。月1回は花見等にドライブしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様同意の下、職員とお出かけをし買い物をされる利用者さんもお楽しみで生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ってきている利用者さんもいる。また、本人の希望によって電話を掛けたいと話された場合は電話をお貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季が感じられるようその季節にあった装飾をするなどして楽しんで頂いている。	共有スペースや廊下の壁には、季節に合わせた利用者手作りの装飾が沢山飾られ、ソファが所々に置かれ、家族の面会時にも活用されている。廊下の所々に天窓があり、採光にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持参して頂いている。また、個々の空間になるよう家具の配置などを検討している。	入口に利用者の写真や花を表示するなどの工夫しているものもある。居室内には家族写真や季節の生け花、趣味で作ったパッチワークや書が飾られたりしている。夫が作ってくれた木製の椅子や使い慣れた筆筒等を持参し、思い思いの配置にしている。テレビを1名、携帯電話を3名が利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に表札をつけるなどして安全に生活できるよう解りやすい工夫をしている。		